

第1回鈴鹿市多文化共生推進計画検討会議における主な発言

日時: 令和5年6月12日(月)14:00～

場所: 市役所本庁舎12階1204会議室

	発言概要	対応
1	日本語を学ぶきっかけづくりを。 ハードの整備と学ぶ機会のバランス	計画と連携したライフサイクル図の作成により対応予定
2	土日にも利用可能なワンストップ窓口の開設	『【No25】関係機関連携した横断的な体制の実現』を新設
3	関係各機関の横の連携, ネットワーク化	『【No25】関係機関連携した横断的な体制の実現』を新設
4	高校進学の情報発信の徹底	『【No9】【青年期】進路指導の充実』にて対応
5	日本人, 外国人, 市民団体等のそれぞれの役割を計画に明記し, 連携を図っていただきたい。	「第5章 2 各主体の役割」を新設
6	幼少期, 学生時代など, それぞれの期間に必要な体制整備	『(2)①ライフステージに合わせた切れ目のない支援』にて整理
7	愛知県のロードマップが参考になる。	計画と連携したライフサイクル図の作成により対応予定
8	「推進体制」が市役所内部に限定されている。市役所以外の他の機関の明記を。	各施策の「実行する機関」を市に限定せず, 関係各機関を明記
9	能力の高い学生に対して, 地域における活躍の場の整備を。	【No28】国際交流事業を新設
10	計画を作ることを目的とせず, 策定後に意味のある計画にしていいただきたい	「第5章 3 計画の進捗管理」を追記し, 毎年度, 関係各機関との施策の進捗確認・調査を行う。
11	アンケートの「多文化共生の理解度」については, 人によって解釈が異なるため, 正確に読み取れない。	鈴鹿市総合計画2031の成果指標にも位置付けていることから, 本計画においても「第3章 4 計画の目標指標」に設定する。
12	医療や災害時など命に係る場面こそ多言語化が必要	『【No16】多様な防災情報発信伝達手段の活用』を重点施策を位置付ける。 『(2)④医療サービスの提供』に関係機関と連携した施策を明記。
13	企業にも本会議への出席を。市の多文化共生を進めていくうえで, 企業にも相応の役割を。	商工会議所もしくは事業所へのヒアリングを検討